# 付　録

〇参加者数

〇事後アンケート結果

〇シンポジウムポスター

〇当日配付パンフレット

〇新聞掲載記事

## 平成29年度大学改革シンポジウム　参加者数

| 区分 | | 人数 |
|---|---|---|
| 国立大学協会 | | 3 |
| 島根大学 | | 40 |
| | 教職員 | 18 |
| | 大学生 | 22 |
| 地域の方<br>（江津市関係、江津市コミュニティ関係、その他） | | 85 |
| 高等学校 | | 44 |
| | 教職員 | 9 |
| | 高校生 | 35 |
| 報道関係 | | 4 |
| 計 | | 176 |

合計　176名

# 平成29年度　大学改革シンポジウム　アンケート結果

平成29年11月3日（金・祝）実施

設問1．このイベントを通して，どのようにお感じになられたか，あてはまる番号に〇をつけてください。

【回答：そう思う←　1・2・3・4・5　→そう思わない】

## ①　地域を学びの場として次世代の人材を育成することができると思う。

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 1.そう思う | 40 |
| 2.まあそう思う | 16 |
| 3.どちらとも言えない | 7 |
| 4.あまりそう思わない | 1 |
| 5.そう思わない | 1 |
| 未記入 | |
| 総計 | 65 |

## ②　地域の中で，多様な主体（学校・地域住民・保護者・NPO・行政など）が連携，協働することができると思う。

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 1.そう思う | 32 |
| 2.まあそう思う | 22 |
| 3.どちらとも言えない | 8 |
| 4.あまりそう思わない | 2 |
| 5そう思わない | 1 |
| 総計 | 65 |

## ③　高校での地域課題に関する学びを大学でより高めることができると思う。

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 1.そう思う | 30 |
| 2.まあそう思う | 19 |
| 3.どちらとも言えない | 11 |
| 4.あまりそう思わない | 2 |
| 5.そう思わない | 1 |
| 未記入 | 2 |
| 総計 | 65 |

**設問2. このイベントを通じ、心に残ったこと、キーワード、考えたことなど自由にお書きください。**

【江津市民の方】

・山本先生の思考の変化と期待すること。
・地域とのつながり，積極的に地域に入り活動すること。まずは体験することが成果となる。
・「本当の地域課題」。それぞれの町で課題はあると思うが，我が町（人口 2800 人，適当に家も商店もある。海近で交通も特に不便もない，災害も少なく・・・）こんな町の課題は，そこに住む人々が課題を感じていないということ。おそらく根本的なことはそれだと思う。また，個人主義が蔓延しており，他人のため，地域のために自分を犠牲にするという考え方はない。
・自立して考えることから始まる。フィールドワークは自然，人文を問わず，進歩や発見，課題の発見と解決につながる方法であり，技能を見につける現場。
・東村さんの発表で気付かされるところがありました。自分本位の地域振興ではなく，真に地域に必要とされる地域振興が大切だと感じました。
・先ずこのシンポを江津市で開催していただいたこと，ありがとうございます。
地域づくりには，若い人の存在は大きいと考える。いろいろな取り組みは地域の活性化活動の参考になった。島根大学が地域課題に一緒になって取り組んでいただいていることに御礼申し上げます。
・教育機関で地域の取り組みがなされている事に，とても安心しました。地域で一部の人が参加するのではなく，皆んなが参加できて，楽しさ，充実感を実感できる取り組みが出来たらと思います。とても勉強になりました。
・連携（小中高大一貫教育の必要）教育支援
・東村さんが感じていた地域に対する違和感は究極のジュネレーションギャップでもあると思う。「未来への夢を追うもの」と，「その夢をあきらめた者」との。学校教育は実にとても重要で，決まった解のない問題解決能力のトレーニングが必要。そのトレーニングをしていない人たちの集まりの典型が三江線の協議会だったと思う。若い人の価値観を活かし，地域課題とを結びつけられるプロデューサ的リーダーがいれば良いのだけれど，地域にいないのが現実（元地域おこし協力隊より）
・高校生の活動に感心しました。
・島根大学の東村さんの発表は素晴しかった。大学２年生の意識レベルがこれほどに高いのかと感心した。大学，高校はこういう人材を育成していかなければいけないと思う。学力だけではいけないと考えさせられました。
・地域に必要な人材・・そのスキルとは？　子供たちに地域と触れ合う場をどんどん持ってほしい。
・地域の求める，求められる人材の育成！
・地域の課題を知った上での地域活動を住民と一緒に考え，行う。
・地域課題，創造力。
・耳を澄ます？じっと見る。意味を考える。人間しかできない。
・「耳を澄まし，じっと見て意味を考える。」地域の様々な課題解決につながるかもと思いました。
・地域を引っ張っていく若者が今後多く，世の中に出てくることが楽しみと思います。
・東村さんの発表。
・COC

・少子高齢化が進む江津市等地域の未来を，高校生や大学生が考え，取り組む活動について，聞く機会を得られた。今後も更に取組みを進めてほしいと思う。世代，枠組を超えた関わりの中で，相手の立場，思い，考えを尊重し合える地域ができあがることを望んでいる。
・ふるさと学習，キャリア教育，総合学習がそれぞれのステージを取り組まれているが，これらの連携が図られて，一貫した取組みになっているのだろうか。地域に子ども達を残す，戻ってもらうことを考えると，連携した取り組みが重要ではないかと考える。
・地域に愛着を持つ島根の高校生が，より多く島根大学へ入学できれば良いと思いますが・・・

【江津市外の方】
・「意味を考える」ことが大事
・COC 人材育成コースの学生の気付いたこと（自己満足化していないかとの問いかけ）と専門性を持つことの重要性に
対する認識
・AI・ロボットは“神”では無い。（人間は「利用」～せいぜい「共存」まで
現代の人類社会の混乱・妄動を収めるには『地球史』出番を要する。人類の「価値判断」「未来予測」に有益～必須！　AI・ロボットに出来なくて人間に出来ることに気付くことから始まる。
・高校生・大学生の実体験の発表が心強く感じた。これからの AI 時代を生きぬくための基礎力になるのではないかと思います。
・高校生・大学生の発表のレジメ資料があるとよいと思いました。パワポイントで発表されていたので，そのコピーしたものがあると話を聞きやすかったと思いました。AI について，「人間にしかできないことがある。」
・相手の立場に立つ。優しい目で見守る。
・小さなことに気づき考えることが大切で，いいことだと感じた。高校生がんばってほしい。発表でいろいろ感じたことでしょう。
・自分にとってどんな姿が幸せか。自分の幸せを考えるにあたって，地域の方々との多様な関わりが意味を持つということを強く感じた講演，発表でした。「地域から求められる人材になる」
・自分の幸せを考える。
・地域にとって本当に必要なことは何か？　幸せとは何か？
・地域　＝　人　と考えるのが正解なのか悩みます。
・地域貢献・・・・活動だけで満足しない・・・（それぞれが）課題をみつけ，歩みよれる位置の発見。
・地域に求められる人材になるという言葉が印象的でした。

**設問3. 地域に貢献する人材を育成するため、島根大学に期待することがありましたら、自由にお書きください。**

【江津市民の方】

・高校生とは行事のお願いはできるが，本当の地域課題，無関心，無課題ということについては無理であると感じている。島根大学生にそれを求めてはだめですか？
・地域課題解決に向けて，島根大学様の果たす役割は大きいと感じます。特に総論でなく，各論，個別具体の分野で課題解決に挑む姿がもっと見たいと感じました。
・江津市に是非入り込んで，地域課題について提案と同時に一緒に活躍を期待しています。
・出身地域に帰って今後の地域課題解決する人材の育成。地域活性化のための人材育成
・課題解決のトレーニングと調整しながら誘導していくリーダーシップを持った人材育成が急がれる。
・島根に想いをよせている子どもたちに，ぜひ，島根の良さを全国へアピールできるよう教育してほしい。
・大学入試は全国区なので，県外出身者がどうしても多くなる。県内出身者を増やす取り組みはもちろん県外出身者の県内定着の取り組みを考えていかなければいけないと思う。その方策の一つは，地域とのかかわり，愛着を持っていただくことだと思う。
・さまざまな地域に学生をふれさせる。地域の人と一緒に考える。地域の子どもたちの体験活動に何年間か教育学部の学生に支援してもらったが，その時のみの関わりしかなく，できれば続けて関係ができるようなシステムになれば良い。
・COC 人材育成コースに興味があり，人材育成に期待する。
・地域にサテライトオフィスをおいて，地域コミュニティの課題解決に取り組んでほしい。
・県外に出て行かれる学生さんも多いと思いますが，今日発表された学生さんのような方をたくさん育成していただきたいです。今日の発表とてもよかったです。心強かったです。
・島根大学は東村さんのような人材を大切にするべき。
・地域との関わりを続けてほしい。
・江津市へサテライトキャンパスの設置を検討されたい！

【江津市外の方】

・地域貢献人材育成入試の拡充を望みます。高校在学時の活動と地域貢献への意欲をきちんと評価し，優秀な人材（可能性をもつ人材）を合格させてほしいと思います。そのうえで，大学での専門的な知識，技術の修得への指導と支援を望みます。
・「洞察力」潤沢な若者に（多様体験を）。「成就を信じアキラメない」若者に（体を鍛える）。環境（自然・人々）を愛でる心を持つ若者になれ！
・島根大学の地域貢献人材育成入試に益々期待いたします。
・COC 人材育成コースの取り組みは初めて聞きましたが，とても良い取り組みだと思いました。
・地域貢献人材育成入試による生徒募集は今後も幅を拡げて実施していただきたいと考えます。また，今回のような高大と地域との交流の場を設けていただけることで，高校生の意識も高まり，本当に地域と関わる意味も深く考えることが出来ると感じました。特に西部の生徒にとっては大学生さん

の発表から大学で学ぶことの意義を大学生が意識できるこの育成コースの継続を強く感じました。また，地域に出かけることで，年齢や立場の異なる方々と接して，その現場や当事者の方々に迫っていくことができると思います。

・中学・高校への出前授業の充実。研究や実技・実習の相談窓口や申請の手続きの簡略化。アドバイザーとしての役割。

・地域に貢献する人材を大学で学ぶことができるようにさせるための入試改革をお願いします。

・地域の視点でお客様満足を追求してほしい。今は窓口がバラバラで，ワンストップサービスにほど遠い状態だと思う。民間の発想を取り入れるべき。

**設問4. その他、お気づきになった点、ご感想等お願いいたします。**

【江津市民の方】

・地域に貢献する人材を育成するためには，小学生，中学生，高校生の各年代に応じて地域について考える機会を積極的に設けると良いのではないかと思う。幼い頃からの意識付けがないと，大学生になってから地域のことを考えろと言われても，考えるきっかけやエピソードが思いつきづらい気がする。

・地域のニーズが現状維持だったりするので，夢を追う若者とぶつかるのはあたりまえだと思う。そこの調整ができるリーダが必要だと思うけれど，利害関係が複雑で難しいところなのか。

・地域の人も町づくりに共に取り組みたい。

・子ども達も立派な地域の構成員である。先ずは地域の大人が意識し，この点を活かすための地域コミュニティ組織の中に取り込むことが大切だと思う。若者がいないと言われますが，小学生，中学生，高校生も立派な若者です。

・学生の皆さんへ
コミュニケーション能力が大切。会う，聞く，伝える。いろいろな体験をして欲しい。

・私たちの時代には地域で「はたらく」大人の姿を見ることができた！今はIT化により，子供が大人の「はたらく」姿を見る機会が少ないように思う。目，耳で情報は入ってくるが・・・？

・クラウドファンテングやWeb など地域にいない人材がほしい。地域活動は何を目的にやるのかを今一度見つめ直すきっかけになりました。石見人の特性を考え，無理なくやっていきたい。

・地域は何を求めている＝高齢者は何を求めている。その地域にもよりますが，高齢者ばかりではなく，子育て，人口を増やす取り組みも必要ではないかと思います。

・大学でなされた人材育成が社会人として還元される必要があるが，育った学生を受け入れる企業，働き先が特に石見部には少ない。経済界ももっとPRしなければならないが，大学としても掘りおこし，学生に勧めてほしい。人間力のある若者が地域に残ることが地域の活性化につながると思う。頑張ってください。

・島大生の発表の内容に心がドキッとした。グサッときた。地域づくりについて，えらそうに言っている行政担当や，地域づくり研究所みたいなところの職員に聞かせてやればいいと思った。自分たちの自己満足じゃ地域に根づかない。

【江津市外の方】

・浜田市という同じ圏域に居住していても，このシンポジウムについて知る機会は殆どなかったというのが実際です。地域の現状と未来について関心を持つ方々も多いと思いますので，是非とも広報を再考していただきたいと思います。高校や大学の取組を市民が知る貴重な機会と思います。

・地元施設「少年自然の家」を活用しての“通学合宿”は賛成。現代の子供の体験不足，生活力不足の解消に役立つ。高校生，大学生の発表の姿勢（企画・調査・活動・まとめ（・反省））良し。ただし，発表力は不足，これも社会に生きる“人間力”の一つ

・開いた大学とは一般人が今日のようなイベントに参加出来て，大変参考になりました。

・地域について考え，調べ，どのように貢献するか考え，実際に取り組むことは，地域の活性化につながると同時に，日本の学校教育の課題である「考える力」を育むことにつながると感じた。
矢上高校の方の発表は考えたことや気づいたことなど，そこから学んでいること，学んだことを自分の言葉で発表していたことが，とても良かったと思う。

・ロボットの問題は「人間が何をできるか」を考えさせるというお話から，そのような人間としての学びを地域を含めた周囲の環境を活用することで，生徒が気づき，自分の力として身につけることが出来るのではと感じました。
発表から自分たちが動いて「手ごたえを感じた」「成果を出した」という経験が出来たことが伝わってきました。一方で，地域に出かけたことで，違和感を感じられたことが次の一歩につながる経験となっており，そのような意味でも学校現場だけでは得られない部分が地域活動の中にあるのだと感じました。今回は貴重な発表の場をいただきまして，ありがとうございました。

・有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

・いろいろな価値観を年代を超えてぶつけながら新しい価値を創っていくことが真の地方創生であると思います。その意味で地域に学生が出かけることは大変有意義なことだと思います。

・学生がりっぱに地域のリソースとして活躍している様子を聴いてうれしく思いました。

平成29年度大学改革シンポジウム

フェスタ 国立大学2017

# 地域の未来を考える

## ー未来を創る力とはー

地域での活動体験は、高校生や大学生にどのような気づきを与え、成長をもたらすのでしょうか。また、それは未来を創る力とどのようにつながるのでしょうか。江津市を会場におこなう今回のシンポジウムでは、第1部で、地元の高校生と島根大学学生が地域から学んだことを発表し、これをもとに、高校・大学・地域が未来づくりのためにできることについて意見交換します。第2部では、高校生と大学生がグループ形式で「地域」をテーマに話し合うことを通して、今、社会で求められている力を養います。地域の未来についてともに考える機会として、地域の方、高校生、教育関係者、一般の方などのご参加をお待ちしております。

### 開催日 the date

**11.3(金・祝)**

**開場12:30～**
**時間13:00～16:00**

| | |
|---|---|
| 会　場 | パレットごうつ ホール<br>(島根県江津市江津町1518-1) |
| 参加費 | 無　料 |
| 定　員 | 190名 ※定員になり次第申込みを締め切らせていただきます。 |

※申込みはFAXもしくはホームページより行ってください。
申込締切は10月27日(金)17:00までとなります。

### プログラム program

**第1部**

13:00～14:30(会場 ホール)

**●開会あいさつ**

**●基調講演「高校・大学・地域で育てる未来の力」**
国立大学協会専務理事　山本健慈 氏(元 和歌山大学長)

**●高校生と大学生による地域活動体験発表**
発表者／矢上高校生徒、江津高校生徒、島根大学学生

**●総合討論**
パネリスト／江津市長、国立大学協会専務理事、島根大学長

【移動・休憩】

**第2部**

14:40～16:00(会場 会議研修室①・②)

**●高校生と大学生のワークショップ**
高校生と大学生が「地域」の姿について考え、グループで話し合うことを通して、協働性などの力を高めることを目指す活動です。
※江津市内外の高校生、島根大学学生が参加します。成人の方は、高校生・大学生の活動をご覧いただけます。

※障がい等について、特別な配慮の必要な方は、事前にご相談ください。

■主催:島根大学 ■共催:一般社団法人国立大学協会 ■後援:島根県教育委員会、江津市、江津市教育委員会

■お申込み・お問い合わせ先 島根大学 教育・学生支援機構 アドミッションセンター

TEL0852-32-6625 FAX0852-32-9726

[E-mail]admissioncenter@office.shimane-u.ac.jp　[HP]http://www.shimane-u.ac.jp/

【お申込み専用HP】
http://www.leaf.shimane-u.ac.jp/enquete/no/festa2017

平成29年度 大学改革シンポジウム

フェスタ 国立大学2017

# 地域の未来を考える

## ―未来を創る力とは―

平成29年11.3（金・祝）

開場12:30～ 時間13:00～16:00

会場 パレットごうつ

■主催／島根大学 ■共催／一般社団法人国立大学協会 ■後援／島根県教育委員会、江津市、江津市教育委員会

## スケジュール

### 13:00～ ホール（2階）

**■開会あいさつ**

服部 泰直（島根大学長） 山下 修氏（江津市長）

### 第1部 13:10～14:30 ホール（2階）

**13:10～**

**■基調講演**

◆講師
国立大学協会 専務理事 山本健慈氏（元 和歌山大学長）

◆テーマ
「高校・大学・地域で育てる未来の力」

**13:30～**

**■高校生と大学生による地域活動体験発表**

◆発表者
矢上高等学校生徒 江津高等学校生徒 島根大学学生

◆進行
美濃地 裕子
（島根大学アドミッションセンター）

**14:10～**

**■総合討論**

◆パネリスト
山下 修氏（江津市長） 山本 健慈氏（国立大学協会専務理事） 服部 泰直（島根大学長）

◆コーディネーター
泉 雄二郎（島根大学アドミッションセンター）

### 第2部 14:40～16:00 会議研修室①・②（2階）

**■高校生と大学生によるワークショップ**

高校生と大学生が「地域」の姿について考え、グループで話し合うことを通して、協働性などの力を高めることを目指す活動です。

◆ファシリテーター
中野 洋平・高須 佳奈（島根大学地域未来戦略センター）

島根大学長
服部　泰直

## 島根大学長あいさつ

少子高齢化が加速的に進む島根県では、地域課題に向き合い地域活性化に取り組む人材育成が求められており、本学では地域貢献人材の育成を重点課題として取り組んでいます。この度、高校生と大学生が地域での活動について発表する場を軸にしたシンポジウムを、キャリア教育と地域活性化の取り組みを地域で一体となって展開しておられる江津市において、開催する運びとなりました。

本学では、全学部に「地域貢献人材育成入試」を導入し、学部横断的な「COC人材育成コース」を設置するなど、地域に関する実践的学びを強化しています。

本シンポジウムでは、このコースの学生と地域の高校生が、対話を通じて地域社会への関心を持ち、協働的な学びの体験から知的好奇心を高めることを目指しています。そして、皆様との意見交換により、意識の共有をさせて頂ければ幸いです。本シンポジウムが実り多いことを祈念しまして、挨拶の言葉といたします。

## 講師・パネリスト紹介

### 山本　健慈（国立大学協会　専務理事）

1948年山口県生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。1977年和歌山大学に着任、同大学生涯学習教育研究センター長、副学長等を経て2009年8月から2015年3月まで和歌山大学学長。2015年5月現職に就任。専門は社会教育・生涯学習論、子育て支援システム論。文部科学省中央教育審議会臨時委員（生涯学習分科会）。著書『地方国立大学一学長の約束と挑戦』−和歌山大学が学生、卒業生、地域への「生涯応援宣言」をした理由−

### 山下　修（江津市長）

1948年島根県生まれ。関西大学法学部卒業。1971年島根県入庁。2003年4月から島根県商工労働部長、2006年4月から2008年3月まで地域振興部長。2008年4月から12月まで島根県信用保証協会専務理事。2009年1月から2014年4月まで江津市副市長。2014年7月現職に就任。

### 服部　泰直（島根大学長）

1956年長野県生まれ。筑波大学第一学群自然学類卒業。大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程修了、1987年理学博士（筑波大学）。1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、1995年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月総合理工学部長、2012年4月総合理工学研究科長。2015年4月現職に就任。専門は位相数学。

## 地域活動取組紹介

### 島根県立矢上高等学校

発表者
埓口　未佳（2年）
中平 真結花（2年）
榎本 龍之介（2年）

矢上高校普通科2年生は、毎年「総合的な学習の時間」を使い、邑南町の課題を考え、提言をしてきました。今年度は、自分達の興味関心や進路希望に沿って、できること・やりたいことを考え提言するのではなく、町民の方との会話の中から得たものを参考に、「町のため」「自分のため」にできることを考えました。本日は、医療福祉系に進学を希望している生徒が、「健康づくり」という観点から、管理栄養士や保健師、いきいきサロンなど多様な機関を巻き込んでいる「ケアご飯」について発表します。

### 島根県立江津高等学校

発表者
小川 凜子（2年）
土屋 那奈（2年）

江津高校では、「地域・社会を幸せにする」ための役割を意識して、総合的な学習の時間を用いた「KAWARAプロジェクト」に取り組んでいます。1年次には地域の方々からお話をうかがうことで地域課題への考えを深めることができました。2年生では各自が「課題探求テーマ」を掲げ、様々な活動を通してテーマについての考察を深めています。今回は、その一つとして夏休みに取り組んだ「地域コミュニティーセンター」での活動を中心に、今後の地域連携活動も含めた発表をします。

### 島根大学

発表者
東村 実菜子
（生物資源科学部2年、COC人材育成コース）

生物資源科学部地域環境科学科に所属する東村さんは、学部ならではの「地域」を学ぶ科目や専門科目を履修するとともに、学部を超えたCOC人材育成コースに所属して地域での実践力を養っています。

今回は、大学生として実際に参加した「地域づくり」の体験から、私たちがどのように地域と関わればよいのか、どのようなことが地域のためになるのかについて考えます。

江津市長
山下　修

## 江津市長あいさつ

「GO▶GOTSU!山陰の創造力特区へ」をスローガンに掲げる江津市の総合戦略では、基本目標の一つを「住みたい!住み続けられる江津をつくる」とし、「ふるさと・キャリア教育」に取り組んでいます。この中で、地元企業が教育現場へ入り、働くことの意義や自分がどのように地域に貢献すべきかを考える場面を設けたり、土曜日や放課後に地域の方と接して、様々な価値観に触れる機会をつくっています。今後のITやAIが発達する世界では、これまで以上に人と関わるスキルや、様々な人の意見を受け止めて新しい価値を生み出す創造力が重要となってきます。本市の教育活動では、こうした人づくりを最終目標の一つとし、学生の地域活動は、地域の活性化に寄与しつつも、学生自身が創造力のある人材へと成長し、未来へはばたくための教育プログラムそのものであると考えています。

今回のシンポジウムにおける関係者の皆様の多様なご意見から、今後の教育活動の新しい価値が創造されることを心から祈念し、歓迎のご挨拶といたします。

# 会場案内図

2F
ギャラリー
ホール
第1部会場
基調講演
ほか
シンポジウム受付
市民団体
活動室②
市民団体
活動室①
会議研修室
③
会議研修室
②
会議研修室
①
第2部会場
高校生と
大学生の
ワークショップ
ワーク
ステーション
江津
障がい児・者
基幹相談
支援センター
空　中　回　廊
江津市
社会福祉
協議会

1F
管理事務室
フリースペース
パレットごうつ駐車場の無料
申請はこちらへお願いします。
キッチン
スタジオ
江津市子育て
サポートセンター
交　流　広　場
スタジオ
江津市
観光情報
センター